

August 30, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議への期待感から 106.68 円まで上昇

29日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は106.52円と前営業日NY終値(106.12円)と比べて40銭程度のドル高水準だった。中国商務省の報道官が9月に予定されている米中閣僚級貿易協議について前向きな姿勢を示したうえ、トランプ米大統領も中国との貿易協議を「本日からこれまでと異なるレベルで再開する」と表明。両国の貿易協議進展期待を背景に米国株が大幅に続伸すると、投資家のリスク志向が改善し円売り・ドル買いが優勢となった。米10年債利回りが1.5333%前後まで上昇したことも相場の支援材料となり、106.68円まで上値を伸ばした。ダウ平均は370ドル超上げたほか、ナイト・セッションの日経平均先物は260円上昇した。

ユーロドルは4日続落。終値は1.1057ドルと前営業日NY終値(1.1078ドル)と比べて0.0021ドル程度のユーロ安水準だった。欧州中央銀行(ECB)の次期総裁に内定しているラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事がEU議会への書簡で「ECBの政策金利は下限に達していない」「ECBには幅広い手段がある。行動の準備必要」との見解を示すと、ユーロ売りが先行し、1.1056ドルまで値を下げた。ECB理事会メンバーのクノット・オランダ中銀総裁が「現時点では量的緩和(QE)再開の必要はない」と発言すると、ユーロを買い戻す動きが広がり1.1093ドルまで反発したが、9月のECB理事会での利下げをはじめとした緩和策への期待は根強く戻りは限定的だった。米中貿易協議の進展に対する期待感から米国株高と米金利上昇が進むと、ユーロ売り・ドル買いが優勢となり一時1.1042ドルと1日以来の安値を付けている。

ユーロ円は続伸。終値は117.78円と前営業日NY終値(117.56円)と比べて22銭程度のユーロ高水準。米中貿易協議の進展期待を背景に米国株高が上昇すると、投資家のリスク選好度が高まり円売り・ユーロ買いが優勢となった。クノット・オランダ中銀総裁の発言も相場の押し上げ要因となり、117.94円まで上昇した。ラガルドIMF専務理事の発言で117.50円付近まで売られる場面もあったが下押しは限定的。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商協議関連報道・人民元基準値・月末取引に要警戒か

本日の東京市場のドル円は、月末に向けた取引や中国人民元の対ドル基準値に注目しつつ、昨日開催された異なるレベルでの米中通商協議に関連するヘッドラインに警戒する展開が予想される。

中国商務省報道官は、9月に予定されている第13回米中閣僚級通商協議について前向きな姿勢を示し、トランプ米大統領も中国との貿易協議を「本日(29日)からこれまでと異なるレベルで再開する」と表明したことで、米中通商協議への期待感が高まっており、リスク回避地合いが後退している。

リスクシナリオとしては、トランプ米大統領が香港問題を「米国・香港政策法」を盾にして、米中通商協議の俎上に上げていることで、難航・決裂リスクが払拭されないことにある。

昨日の香港では、中国人民解放軍の装甲車の車列が香港へ入っていく模様が放映されたが、香港駐留部隊の定期交代が行われた、と報じられている。香港駐留部隊が増員されていないか、注視されており、香港政府による戒厳令、中国政府による武力鎮圧への警戒感は依然として払拭されていない。

ドル円のアストロロジーでの月齢サイクル(新月のドル売り・満月のドル買い)からは、8月1日の新月では、トランプ米大統領が対中制裁関税第4弾(3000億ドル)を表明したことで109.32円から下落、15日の満月付近での105.05円、23日の下弦の月付近での104.46円で反発、そして本日30日の新月でのドル売りとなっている。

9月1日からは、米国は対中制裁関税第4弾(3000億ドル)の内の1400億ドル(15%)を発動し、中国も対米報復関税第4弾(750億ドル・5-10%)の内の一部が発動される予定となっているが、現在開催中の異なるレベルでの米中通商協議の結果次第では、延期される可能性もあることから、関連ヘッドラインに要警戒となる。

また、中国人民銀行の中国人民元の対ドル基準値は、11日連続して元安方向に設定されており、中国人民銀行の「為替操作」が粛々と進んでいることが示唆されている。

異なるレベルでの米中通商協議が前向きに進展していた場合、中国人民銀行が昨日の基準値(1ドル=7.0858元)よりも元高に設定して、米中通貨安戦争も休戦となる可能性が高まる。逆に、難航していた場合は、12日連続して元安方向に設定されることで、10時15分の中国人民元の対ドル基準値に要注目となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 7月完全失業率（予想：2.4%）
- 08:30 ◎ 7月有効求人倍率（予想：1.61倍）
- 08:30 ◎ 8月東京都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合予想：前年比0.7%）
- 08:50 ◇ 7月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比▲0.8%）
- 08:50 ◎ 7月鉱工業生産速報（予想：前月比0.3%／前年比▲0.6%）
- 14:00 ◇ 7月新設住宅着工戸数（予想：前年比▲5.4%）
- 19:00 ◇ 外国為替平衡操作の実施状況（介入実績）

<海外>

- 07:45 ◎ 7月NZ住宅建設許可件数
- 08:01 ◇ 8月英消費者信頼感指数（Gfk調査、予想：▲12）
- 10:00 ◎ 韓国中銀、政策金利発表（予想：1.50%で据え置き）
- 10:30 ◎ 7月豪住宅建設許可件数（予想：前月比横ばい／前年同月比▲22.2%）
- 15:00 ◇ 8月英ネーションワイド住宅価格指数（予想：前月比0.1%）
- 15:00 ◎ 7月独小売売上高指数（予想：前月比▲1.0%／前年比3.3%）
- 15:00 ◇ 7月南アフリカマネーサプライM3（予想：前年比9.00%）
- 15:45 ◇ 7月仏財政収支
- 15:45 ◇ 7月仏卸売物価指数（PPI）
- 15:45 ◇ 8月仏消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比0.4%／前年比1.0%）
- 16:00 ◇ 8月スイスKOF景気先行指数（予想：94.5）
- 17:00 ◇ 8月ノルウェー失業率（予想：2.3%）
- 17:30 ◇ 7月英消費者信用残高（予想：10億ポンド）
- 17:30 ◇ 7月英マネーサプライM4
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏失業率（予想：7.5%）
- 18:00 ☆ 8月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比1.0%）
- 18:00 ☆ 8月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比1.0%）
- 18:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 21:00 ◎ 7月南アフリカ貿易収支（予想：20億ランドの黒字）
- 21:00 ☆ 4-6月期インドGDP（予想：前年同期比5.7%）
- 21:30 ☆ 6月カナダ国内総生産（GDP、予想：前月比0.1%／前年比1.4%）
- ☆ 4-6月期カナダGDP（予想：前期比3.0%）
- 21:30 ◇ 7月カナダ鉱工業製品価格（予想：前月比0.3%）
- 21:30 ◇ 7月カナダ原料価格指数（予想：前月比1.5%）
- 21:30 ◎ 7月米個人消費支出（PCE、予想：前月比0.5%）
- ◎ 7月米個人所得（予想：前月比0.3%）
- ☆ 7月米PCEデフレーター（予想：前年比1.4%）
- ☆ 7月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.2%／前年比1.6%）
- 22:45 ◎ 8月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：47.5）
- 23:00 ◎ 8月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、確報値、予想：92.1）
- トルコ（戦勝記念日）、休場
- 9月1日 米政権、対中関税第4弾発動

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

※時間は日本時間

29 日 06:01 ムニューシム米財務長官

「超長期債の発行を真剣に検討」

「米国は当面、ドルに関して介入する意思はない」

29 日 06:34 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

「FRB は低インフレで一段の雇用増を求めることが出来る」

「経済が向かい風に直面していることもあり、金融政策については現在『様子見』姿勢をとっている」

「米経済は成長しているものの、不確実性は高い」

29 日 12:12

「政策当局者として政治的問題を考慮することはない」

29 日 10:37 鈴木日銀審議委員

「具体的な追加緩和措置を講じる場合、効果と副作用を比較衡量しながら適切に対応する」

「国内経済は景気後退を示唆するような状況にはない」

29 日 14:11

「長期金利の具体的範囲を過度に厳格に捉える必要はない」

「現時点で追加緩和は必要ない」

29 日 15:36 リースモグ英保守党議員(離脱派)

「合意なきブレグジットに反対する議員には、政府を変えるか、法改正を行うかの 2 つの選択肢がある」

「法改正には時間がかかり、足りない」

29 日 16:12 中国商務省

「米中は有益な関係」

「貿易衝突は中国、米国、世界にとって良くない」

「新たな制裁に対応する十分な報復手段がある」

「米中は 9 月の訪米で議論している」

29 日 19:40 マクドネル労働党議員(影の財務相)

「不信任投票の要求について依然オープン」

29 日 22:17 ラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事(EU 議会への書簡で)

「ECB の政策金利は下限に達していない」

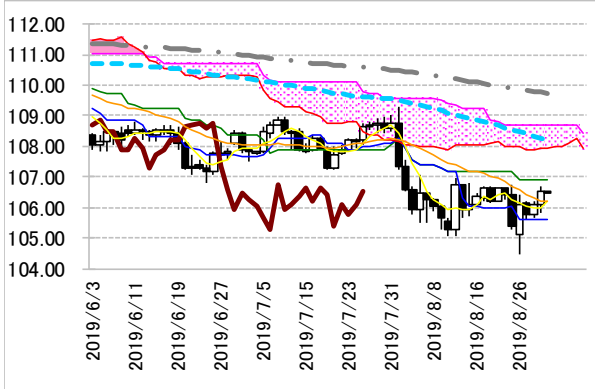
29 日 22:49 トランプ米大統領

「本日、中国について異なるレベルでの協議を予定」

29 日 23:38 クノット・オランダ中銀総裁

「現時点では量的緩和(QE)再開の必要はない」

〔日足一目均衡表分析〕

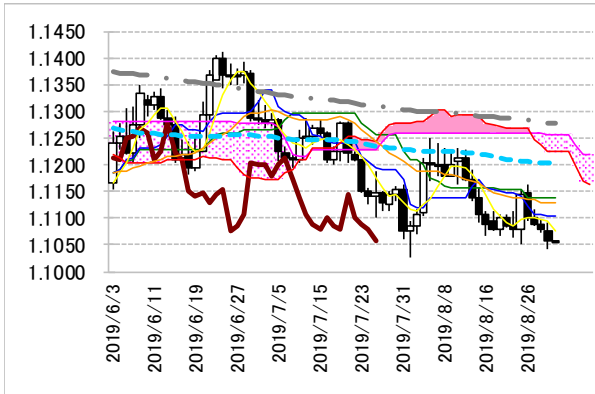


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、23日の陰線に対して26日の「切り込み線」で切り返し、23日の陰線の始値を上抜けたことで、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス1	106.89(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.52
サポート1	105.60(日足一目均衡表・転換線)
サポート2	104.46(8/26 安値)

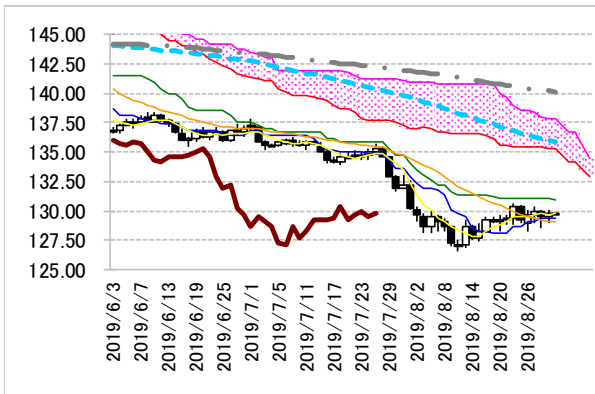


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。「被せ線」、4手連続陰線により下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1103(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1057
サポート1	1.1027(8/1 安値)

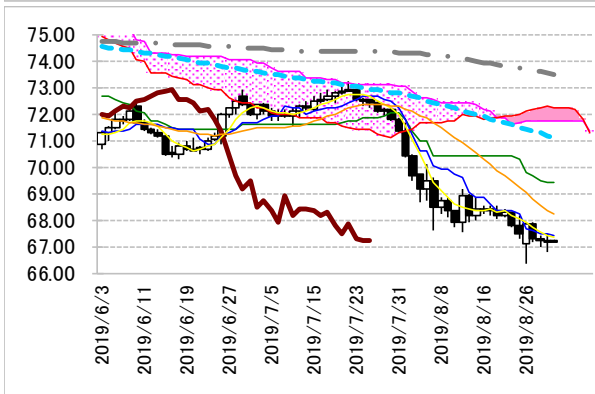


<ポンド円＝29日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、23日の陰線に対して切り込み線で切り返し、23日の陰線の始値を上回ったことで、反発の可能性が示唆されている。

本日は、29日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	130.97(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	129.76
サポート1	128.98(8/29 安値)



<NZドル円＝26日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

寄引同事線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。23日の陰線に対して26日の「抱きの一本立ち」で反発したものの、2手連続陰線で反落、そして寄引同事線により反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線 67.42 円を念頭に置き、26日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	67.94(8/26 高値)
前日終値	67.23
サポート1	66.32(8/26 安値)

